

水田から流下したホンモロコ稚魚の移動

岡本 晴夫・氏家 宗二

1. 目的

琵琶湖の周囲に点在する内湖は、かつてはフナ、モロコ等コイ科魚類の産卵繁殖場として、また、仔稚魚の育成場所として機能していた。しかし、現在の内湖は、オオクチバス等の外来魚の繁殖と在来魚の減少により、その機能は低下していると考えられる。そこで、内湖が本来持つ在来魚類の育成機能の回復を目的として、県内最大の内湖である西の湖において、排水が西の湖へ流入する水田にA L C耳石標識を付けたホンモロコのふ化仔魚放流を行い、稚魚の移動について調査を実施した。

2. 方法

排水が西の湖へ流入する水田（常楽寺地先）に、5月中旬から下旬にA L C耳石標識を付けた2日齢のホンモロコの仔魚を収容し約1ヶ月間育成後、水田の中干し時に稚魚をそれぞれ流下させた（図1）。その後、6月21日から7月18日まで西の湖および周辺水域において、ビームトロール網（以下「ビートロ」）による採捕を5回実施し、稚魚の動向を調査した。



図1 ビームトロール調査定点およびホンモロコふ化仔魚収容および流下状況

3. 結果

水田からの流下直後に流下場所付近の水域で標識魚が多数採捕され、その後、西の湖一円に

分布し、一部は琵琶湖に通じる長命寺川で採捕され、約1ヶ月後には、ほとんど採捕できなくなった（図2、3、4）。これらのことから、水田から流下したホンモロコ稚魚は、その後、西の湖にとどまり、流下から1ヶ月以内にはほとんどの個体が長命寺川を通じて琵琶湖へ移動するものと考えられる。



図2 ビームトロールによるホンモロコ標識稚魚採捕状況(平成24年6月21日)

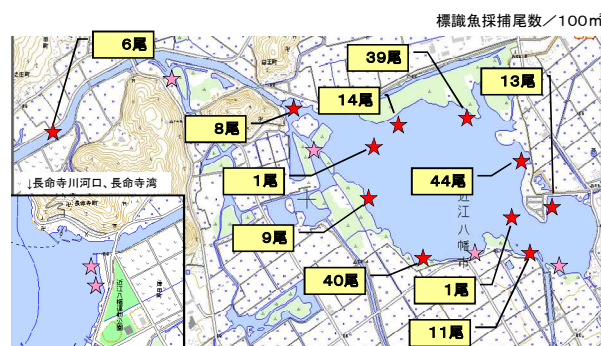


図3 ビームトロールによるホンモロコ標識稚魚採捕状況(平成24年7月2日)



図4 ビームトロールによるホンモロコ標識稚魚採捕状況(平成24年7月18日)